

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2026年 2月 18日				
事業所名		公表日 2026年 2月 18日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	体を思い切り動かすことができる広さや個別対応が複数個所でできるスペースがある。	個室数は多いが半面、高学年の利用者が多い日は一部屋に集まると手狭に感じることもある。分散して過ごす工夫をしていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	配置基準より多めの配置でイレギュラーな事態に備えている。	緊急性のある個別対応が必要になった際、当日の利用児童メンバー次第ではプログラムの遂行が困難になるときもある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	視覚的支援の掲示により能動的に子どもたちが行動できるような取り組みをしている。スロープのある玄関のため身体障がいのある利用児童に対しても配慮している。	靴箱や荷物置き場など、工夫して子どもたちが更に意欲的に自ら行動できるような支援も考えられる。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	毎日清掃は徹底されている。静かに遊ぶ部屋や運動の部屋など、それぞれの空間に役割を持たせている。	毎日の清掃・消毒を徹底し、共有物の削減やペーパータオル使用等で衛生管理を行っています。看護師の指導のもと感染予防を継続し、取組内容をより分かりやすく周知していきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	個室の数に限りはあるが、必要としている児童がいる場合は使用できるようになっている。	日々の観察や面談で得た情報を多職種で分析し、特性に応じた専門的支援を行っています。支援の根拠や連携体制をより具体的に説明し、理解の促進を図ります。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	0	ミーティングでの連絡以外に業務についての提案や意見が伝えられる機会を設けている。	ホームページで公表している支援プログラムを基本に、個々の特性に応じ調整しています。活動報告等で目的やねらいを明示し、内容の一致を分かりやすくお伝えします。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	保護者アンケートの集計結果など面談での情報を基にミーティングは進めている。	観察や面談で得たニーズを多職種で分析し計画を作成しています。計画の根拠や目標設定の意図を面談時により丁寧に説明します。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	毎日事前会議を開いて利用児童それぞれについて意見を出し合っている。	小さなアイデアでも職員が提案しやすいように掲示板を活用するなど工夫は考えられる。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	6	明確な外部評価はまだ行っていないが、学校、社協、保護者など互いに連携を行いながら支援について評価し合うことはある。	現在連携している機関や他事業所などとの連携を深め、評価軸などを話し合い共有しながらより良い支援のために評価し合う必要はある。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	複数回の社内研修を行っている。精神保健福祉士、看護師など専門職の職員によるSSTやCVPPPなど幅広く実施している。	不定期に行っているため、積極的になどのような研修を受けたいかを職員から募り、年間を通して安定的な実施をする必要はある。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	月間カレンダーにより活動プログラムを作成し、毎日担当者を変えながら、固定化しないようにしています。また運動・医療知識・手話・絵本読み・音楽・創作活動・料理など、職員の得意な分野での活動も行い工夫をしています。	支援プログラムの目的や効果を明確化し、活動意図の見える化の充実を図ります。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	日々の観察・情報収集と、保護者の方と面談を行いそこから得た情報も含めたニーズや課題を多職種により多方向から分析を行い計画を作成しています。また子供の状態に合わせて適切な時期に計画をそのつど作成しています。	多職種視点を活かしたアセスメント強化を行い、計画作成の質向上の充実を図ります。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	毎日事前に会議を開いて、前回の様子や面談での内容、現在の状態から推測されること、そのための当日の具体的な支援など指導員それぞれから意見を出し合い、複数教室間も含めて共有している。	面談時に計画を示し説明しています。より具体的にニーズ確認を行い、分かりやすい説明に努めます。

適切な支援の提供	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	毎日事前に会議を開いて、前回の様子や面談での内容、現在の状態から推測されること、そのための当日の具体的な支援など指導員それぞれから意見を出し合い、複数教室間も含めて共有している。	支援計画の共有方法を効率化し、情報共有体制の充実を図ります。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0	毎日の事前会議の際に、保護者へ報告するためのサービス提供記録の他に、職員間のみで共有されるケア記録・生活記録を含めて参照しながら進めている。	HUGを活用しタイムリーな情報共有を行っています。相談しやすい体制を維持しつつ、負担軽減も検討します。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	定期的な保護者・本人面談や担当者会議、各機関訪問などを行って支援内容を検討し、5領域を踏まえた具体的な支援方法を実施しています。	変化に応じた助言や随時相談に対応しています。定期面談の充実と周知を強化します。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	担当者によるミーティングを開き、季節など予定を確認しながら、子どもたちが取り組みやすい趣旨に沿って各々意見を出し合いながら立案している。	活動立案の記録を残し、振り返りと改善につなげる仕組みを整え、チーム力向上を図ります。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	複数人の職員でそれぞれの専門性や強みを生かしたプログラムを作成し実施している。	前年度のものを参考にすることはあるが、更により良いプログラムにするためにどうすべきか、どう改良したのかなどが分かりやすい形にデータを残していく必要がある。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	本人・保護者面談を通してニーズを伺い、状況に応じて優先度を考えた上で、個別での活動とそれを応用した集団活動、または集団活動による親しみやすさから集中的な個別活動など臨機応変に対応できるように作成している。	個別と集団のバランスを定期的に評価し、より効果的な組み合わせ支援を充実させます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	毎日の事前会議の際に、全体的なプログラムの実施における役割分担や進行などを確認したり、特別注意しなければならない可能性のある利用児童について支援や動きを検討し担当を決めるなどしている。	役割分担を明文化し、急な変更時にも柔軟対応できる体制整備を進めます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	支援終了後、連絡帳の入力時に相互確認し振り返りながら記入している	職員間で終業時刻に差がある等のため全体を通した振り返りではないため、クラウドシステムを活用して業務日報で文章として報告できるように周知する必要があります。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	毎日保護者へのサービス提供記録や、実質的な内容や懸念点、今後の支援に関する内容のケア記録・生活記録などを記入している。	記録の質点検を定期実施し、支援改善への活用をさらに充実させます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	定期的な保護者・本人面談を行い（緊急性の高いものは簡易的なものであっても即座に行っている）、支援計画の評価と見直しを行っている。	モニタリング様式を整理し、評価の可視化と迅速な見直し体制を強化します。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	6	0	「自立支援と日常生活の充実のための活動」はプログラムと帰宅まで基本的に過ごす時間から、「創作活動」は定期的開催する専門的な創作アートのプログラムから、「地域交流の機会の提供」は夏祭り・秋祭りなど外部からの参加も募る年間行事から、「余暇の提供」は様々なレクリエーション、展覧会などの情報提供など、それぞれに実施している。	4つの基本活動の関連性を明示し、より体系的な支援構成へ発展させます。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	一つのプログラム内においても工夫できたり、レベルに合わせて変更できたりなどの本人による選択肢を用意している。また利用児童間でのトラブル時には、状況などを視覚的に支援しながら理解出来るようにすると共に、極力本人が思考し言葉にして行動できるように支援している。	自己選択場面を増やし、意思決定支援の具体化をさらに充実させます。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	児童発達支援管理責任者や議題にする際当日に該当する利用児童と接した職員なども部分的に参加しながら進めている。	会議参加者の役割を明確化し、情報共有の精度向上を図ります。

関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	精神科病院の勤務経験のある精神保健福祉士や看護師が配置されており、病院受診時の同席や、学校との担当者会議に積極的に参加し、顔の見える関係を作り連携し支援しています。	医療・教育機関との定期的連携機会を増やし、支援連携の質向上を図ります。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0	送迎時に当月のスケジュール表を配布して頂いたり、口頭で利用児童の状況の確認なども併せて情報共有を行っている。	学校との定期協議の場を検討し、より計画的な情報共有体制を構築します。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	4	担当者会議などを通して各機関、他事業所との連携を行っている。	就学前機関との情報共有様式を整え、引継ぎの質向上を図ります。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	4	担当者会議などを通して各機関、他事業所との連携を行っている。	移行支援資料を標準化し、スムーズな引継ぎ体制を強化します。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	2	児童発達支援センターとの連携はありませんが、療育センター受診時の同席による医師との支援方法の意見交換や、発達障害者支援センターとは、会議などを通じて、支援方法の意見交換などを行っています。また、精神保健福祉士の実習生を受け入れ、スーパーバイズを行っています。	児童発達支援センターとの連携機会を検討し、専門的助言の充実を図ります。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	6	感染拡大を懸念して、正式な活動として他事業所との交流の機会はまだ実施していないが、夏祭りや秋祭りなど外部への参加を募る取り組みは行っている。	感染状況を踏まえつつ交流機会を段階的に拡充し、地域交流を充実させます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	4	自立支援協議会への参加はしていないが、研修会や交流会へは積極的に参加している。	自立支援協議会への参加を前向きに検討し、地域連携の幅を広げます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	クラウドシステムからサービス提供記録により利用当日の様子を報告したり、メール機能などにより気軽に保護者が児童へ保護者本人の状態、予定などの連絡ができるように工夫している。	発信内容の整理と頻度調整を行い、共通理解の深化を図ります。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	0	ペアレントトレーニングは現在行っていないが、保護者の対応力の向上を図るため、連絡帳による相談や、電話及び訪問相談に応じて支援しています。都度、対応策や気持ちのコントロールなど具体的にアドバイスや情報提供を行っています。	家族支援プログラムの導入を検討し、保護者支援の体系化を進めます。
	保護者へ	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	見学、契約の際に説明しているが、不明な点や疑問点があった場合はその都度対応している。
37		放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	定期的な本人・保護者面談の際に、意向を伺いながら優先度合いなどを含めて検討、実施している。	専門的支援の実施などにより、本人も興味があって強化していきたい具体的な支援などを促進していく必要はある。
38		「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	保護者と面談し計画書を提示しながら、内容やスケジュールなどを説明して同意頂いている。	計画説明時の理解確認を徹底し、合意形成の質を高めます。
39		家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	定期的な本人・保護者面談の際に、意向を伺いながら優先度合いなどを含めて検討、実施している。それ以外にもクラウドシステムの連絡機能を通していつでも保護者から発信ができる状態にしており、利用児童や過程、保護者本人など広い内容で活用してもらっている。	相談対応記録を整理し、継続的支援の質向上を図ります。
40		父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6	0	保護者参加のワークショップや茶話会の実施、夏祭り・秋祭りなど外部からの参加も募る年間行事など、積極的に様々な関係者が集える機会を設けている。	毎回参加されている保護者などが定期的になりやすいため、参加しやすい日程や回数、周知徹底のための工夫などが必要。

への説明等	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	保護者対応については対面、電話などの他にもクラウドシステムの連絡機能を活用して随時受付できるようにしている。またお申し入れがあった場合は、即座に解決に向けて個人ではなく職員チームとして対応するようにしている。	苦情対応フローを再周知し、迅速対応体制の見える化を進めます。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	0	紙面、クラウドシステムを活用して毎月のプログラムや外部レクリエーション、展覧会などの情報提供を行っている。またインスタグラムによるプログラムの様子などを発信している。	SNS発信計画を整理し、情報発信の質と頻度を充実させます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	個人情報については細心の注意を払っています。	個人情報管理周知を定期化し、意識向上をさらに図ります。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	子どもに対しては掲示物やイラスト、動画など様々な視覚的支援を踏まえて伝えたり、本人の状態に寄り添ったスピードで伝えるなど工夫している。またクラウドシステムの連絡機能を活用して保護者とのスムーズな意思疎通に取り組んでいる。	連絡機能も詳細が保護者に伝わりきっていないところもあるため、随時機能説明を行って周知していきたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3	毎年夏祭りと秋祭りを開催し、利用児童や保護者の関係者も含めて地域住民が参加可能な取り組みを行っている。	広報方法を工夫し、地域参加者の拡大を図ります。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	対応マニュアルの策定は行っています。来所時には閲覧は可能です。保護者会等の場で説明していきます。	マニュアル要点を整理し掲示・配信で周知を強化し、訓練報告も充実させます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	BCP事業継続計画及び緊急時対応マニュアル、防犯マニュアルにおける計画の周知や見直しを行い、子どもの安全確保を第一に考えています。	BCP訓練内容を定期見直しし、実践的訓練へ発展させます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6	0	看護師資格取得の職員による管理を行っています。事前会議において職員間での共有も行っています。	服薬情報の更新確認体制を明確化し、安全管理を強化します。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	看護師資格取得の職員による管理を行っています。事前会議において職員間での共有も行っています。	アレルギー対応手順を定期点検し、共有体制を充実させます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	12月と3月に実施。火災、地震、津波など様々な想定で実施。また、1月は阪神淡路大震災、3月には東日本大震災の体験談を交え、子供たちに当時の状況を伝えています。	安全計画の内容を保護者へ分かりやすく発信し、防災意識向上を図ります。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0	BCP事業継続計画及び緊急時対応マニュアル、防犯マニュアルにおける計画の周知や見直しを行い、子どもの安全確保を第一に考えています。	安全計画の周知方法を多様化し、理解促進を図ります。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	その都度書類に記載し、事前会議などで職員間での共有を行っています。	ヒヤリハット分析を定期共有し、再発防止策の質向上を図ります。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	各教室責任者を配置し、定期的に評価、検討などの会議を行っている。	虐待防止研修を体系化し、未然防止体制を強化します。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	各教室責任者を配置し、定期的に評価、検討などの会議を行っている。	身体拘束に関する判断基準を明文化し、説明と記録体制をさらに充実させます。